

## 1 調査の目的

市の施策に対する市民の意見を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結び付けるとともに、調査報告を通して多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的とする。

本調査では、大仙市総合計画に示している体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目について、それぞれ「満足度」と「重要度」、「今後さらに推進すべき取り組み」、また、今年度から新たに「大仙市の住みやすさ」についても調査を行った。

**満足度**…大仙市の現状にどのくらい満足しているか。

**重要度**…大仙市のまちづくりにとってどのくらい重要であると考えているか。

## 2 実施結果

### （1）対象

市内在住の18歳以上の市民の中から無作為に抽出した1,000人（性別、年齢、地域については考慮）に、希望者6人（広報だいせん5月号にて募集）を加えた計1,006人。

### （2）手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

### （3）期間

平成28年5月23日（月）～6月6日（月）

### （4）回収数・回収率

回収数…610人 回収率…60.6%

## 3 調査結果の要約

### （1）満足度及び重要度の分析

#### 〈満足の度合い〉

⇒満足度の上位項目は「花火産業構想」（新規項目）、「学校教育」、「自然・衛生環境」の順となっており、満足度の下位項目は「雇用・就労」、「商工業」、「観光」の順となっている。

⇒今年度から新たな項目を追加したが、昨年度からの項目で比較すると、ほとんどの項目において若干の減少傾向が見られる。

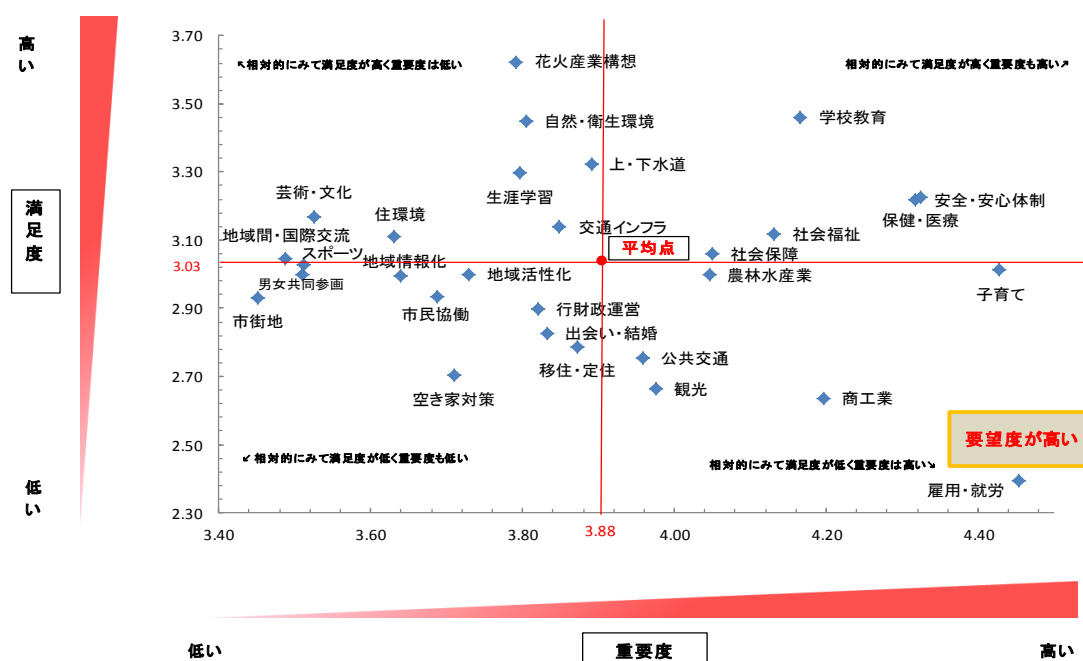
## 〈重要の度合い〉

- ⇒重要度の上位項目は「雇用・就労」、「子育て」、「安全・安心体制」と「保健・医療」の順となっており、重要度の下位項目は「市街地」、「地域間・国際交流」（新規項目）、「男女共同参画」（新規項目）と「スポーツ」の順となっている。
- ⇒昨年度と比較すると、全体的な動きは小さいものの、減少傾向が見られる。

## 〈要望度が高い施策〉

- ⇒相対的に見て、要望度が高い施策（重要度は高いが、満足度は低い）は、「雇用・就労」「商工業」、「子育て」、「観光」、「公共交通」となっている。（図表1）

図表 1



## (2) 今後、さらに推進すべき取り組みの分析

### 〈産業分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「雇用・就労への支援」、「農業の担い手確保、育成」「Aターン希望者への支援」の回答割合が高くなっている。

### 〈出会い・結婚・子育て分野〉

- ⇒さらに推進すべき取り組みとして、「子育て支援体制の充実」、「医療費の軽減」、「保育料の軽減」の回答割合が高くなっている。

### 〈健康福祉分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「高齢者福祉の充実」、「地域医療体制の整備」、「国民健康保険などの社会保障の促進」の回答割合が高くなっている。

### 〈都市基盤分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」、「生活道路の整備」、「安全で安定した水道水の供給」の回答割合が高くなっている。

### 〈環境・安全分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「除排雪体制の充実」、「消融雪施設の整備」、「交通安全、防犯体制の強化」の回答割合が高くなっている。

### 〈教育・スポーツ分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「学校教育の充実」、「スポーツ施設の整備」、「スポーツ活動の充実」の回答割合が高くなっている。

### 〈交流・行政運営分野〉

⇒さらに推進すべき取り組みとして、「移住・定住への支援」、「公共施設の見直し」、「市の魅力の発信・発見」の回答割合が高くなっている。

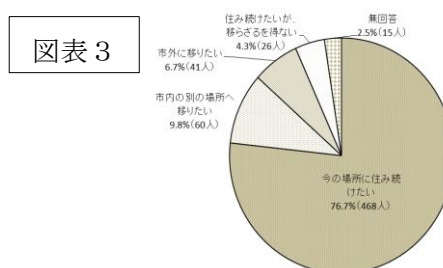
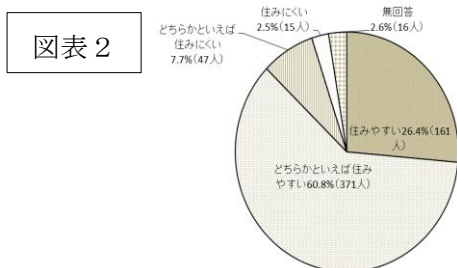
## (3) 大仙市の住みやすさについての分析（新規設問）

### 〈大仙市は住みやすいか〉

「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の割合を合わせると、9割近くを占めている。（図表2）

### 〈大仙市に住み続けたいか〉

「今の場所に住み続けたい」と回答した人の割合が7割以上を占めている。（図表3）



## 4 結果公表について

10月定例記者会見、市ホームページ、市広報（11月1日号）にて公表